

1月27日 「書初め」と「どんど焼き」

校庭の梅の花の蕾がだいぶ膨らみ、昇降口にある赤い花が咲き始めています。少しずつ春が近づいてきています。

さて、先週、学校で書初展が行われました。1年生から6年生の作品が多目的室に展示されました。皆さんの作品を見ていると、手本と向かい合って、一文字一文字、丁寧に気持ちを込めて書いた様子が目に浮かんできました。たいへんすばらしい字であったと思います。

また、武蔵野市全体の書初め展も市民文化会館で行われ、桜野小の代表作品が展示されました。代表となった1年生から6年生まで、どれも力強く美しい字でした。もうしばらくしたら、3階の渡り廊下に代表作品が展示されますので、楽しみにしてください。

書初は日本の伝統的な習わしです。始まりは平安時代といわれ、年が改まるときや節目のときに、天皇に文書を差し出す儀式が始まりだといわれています。貴族の中で行われていたものが、江戸時代には庶民にも広がり今にいたっています。

そして、書初めの意味には次のことが入っています。

○字が上手になるように願う

○一年の目標や決意を決める

○新しい年に、自分の目標や願いを紙に書くことで、心を新たにし、やる気を持って行動を始められる

皆さんも、年の初めに筆や鉛筆を手にして書初めを書いたときは、心が引き締まる気持ちを感じたのではないのでしょうか。

そして、先日のどんど焼きにも書初めは関係しています。知っている人もいるかもしれませんが、どんど焼きで組まれた左義長には、お正月で使った飾りや門松の竹のほかに、書初めも中に入れます。それは、字が上手になりますように、みんなの目標がかないますようにという願いが、天にとどくようにしているのです。

このように年の始めには、さまざまな習わしや行事があります。来年も書初めがあります。さらに磨きをかけていきましょう。そして、これからも文字の形を整えて書く習慣を付けていきましょう。